

# 日本性科学学会 ニュース

第33巻第3号

平成26年(2014年)9月

発行人: 大川 玲子 印刷所: (株)絢文社

## 第34回 日本性科学会 (JSSS) 学術集会 メインテーマ「生殖と性」

日 時: 2014年10月12日(日) 9:00 ~  
会 場: 岡山大学 Junko Fukutake Hall (愛称 J-Hall) URL: <http://j-hall.med.okayama-u.ac.jp/>  
会 長: 中塚 幹也 岡山大学大学院保健学研究科  
岡山大学病院産科婦人科 岡山大学ジェンダークリニック  
岡山大学生殖補助医療技術教育研究 (ART) センター

### プログラム

会長講演: 「生殖と性: 社会を知り社会に発信する」 中塚 幹也  
卵子の凍結・提供などの生殖医療や性同一性障害に関する意識調査を示し、  
ともに考え、社会に発信する。

### シンポジウム I 各種の疾患と性

各種疾患の診断、治療に伴い変化する「性機能」と「性への気持ち」

子宮頸がんと性	春間 朋子 (岡山大学 産科婦人科)
乳がんと性	渡邊 知映 (上智大学 総合人間科学部看護学科) (昭和大学病院プレストセンター・リボンズハウスサポートスタッフ)
性同一性障害と性	難波祐三郎 (岡山大学病院ジェンダーセンター・形成外科)
男性不妊と性	平山 史朗 (東京HART クリニック・臨床心理士)

### シンポジウム II 性教育でジェンダー、セクシュアリティ、生殖を取り上げる

学校でジェンダー、セクシュアリティ、生殖の基礎知識を教えることはできる?

デートDVを取り上げる	ピアグループ ELL (岡山大学・学生グループ)
LGBTを取り上げる	薬師 実芳 (特定非営利活動法人 ReBit 代表理事)
生殖医療を取り上げる	高山 修 (岡山大学生殖補助医療技術教育研究 (ART) センター・ 胚培養士)
教育の現場から	金子由美子 (公立中学校養護教諭・『季刊セクシュアリティ』編集長)

### 映画「うまれる」上映会 (入場無料)

10月11日(土) 9:30 開場 10:00 上映 岡山大学医学部 臨床第1講義室

『中村 中～音楽とトークの夕べ～』(入場無料)

10月11日(土) 17:00 開場 17:30 開演 J-Hall

日本性科学会学術集会・性科学セミナー合同懇親会

10月11日(土) (中村 中さん コンサート終了後) 岡山大学医学部記念会館1階

第34回日本性科学会事務局 (岡山大学医学部保健学科棟2階 リプロカフェ)

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 岡山大学大学院保健学研究科 中塚研究室

お問合せ Phone & FAX: 086-235-6538

E-mail: 34thjsss@gmail.com

## 第15回性科学セミナー: 日本性科学連合

日 時: 2014年10月11日(土) 13:00 ~ 17:00

場 所: 岡山大学 Junko Fukutake Hall (愛称 J-Hall)

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 岡山大学医学部 鹿田キャンパス内

Vol. 33

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853

No.  
3

## 自閉症スペクトラム障害と性犯罪加害

東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース 石丸 径一郎

今回の症例研究会では、精神科クリニックにおける性犯罪加害少年の事例を提示し、ディスカッションを行った。彼には自閉症スペクトラム障害(以下ASDと略記)と考えられる特徴が観察され、性犯罪加害行為に深く関連していると考えられた。事例の詳細については掲載できないため、一般的に発達障害と性犯罪加害行為との関係に関する考察を以下に述べたい。

### 【独特な思考や推論】

ASDの主要な特徴の1つに、人との関係性を維持・理解することの障害がある。他人の感情や思考に気づきにくいため、多くの人が共有している考え方を身につけてこなかった場合がある。加えて、もう1つのASDの特徴として限局的な様式へのこだわりがあり、これによってさらに偏った物事の判断基準を発達させてきていることもある。そのため、性犯罪加害行為を、奇妙な思考や推論によって本人の中で正当化してしまうことが考えられる。

### 【先の見通しの悪さ】

ASDを持つ人では、上述の世間の物事の理解の悪さも加わり、自分の行った行為がどんな重大な結果につながるか予想ができず、問題行動につながりやすい。これに関連して、おそらく強く感情に影響された推論を行うため、一度痛い目を見た後でも、強い興味を感じると未来の悪い結果を想像できなくなり、また同じ問題行動をしてしまうことがある。

### 【性的興奮を感じる対象が非典型的】

ASDの特徴に、強さや焦点が異常で極めて限局され固定化した興味というものがあるが、これは性についても現れる場合がある。性的関心を持つ対象が、同年代や大人ではなく、子どもであったり、特殊な状況(自験例では着衣のまま水や泥に濡れる<wet&messy>、獣奇的・残虐な状況、髪型の変更などがあった)であったりすることもある。このような特殊な嗜好自体がASDと関連しているかどうかについては慎重な判断が必要であるが、ASDの定義から考えれば、限局・固執の程度は高いはずである。また、自身が男性であるか女性であるかというジェンダー・アイデンティティの揺らぎに関連するケースも存在する印象である。

### 【人に頼らない、相談しない】

ASDを持つ人は、困った時に他人に相談しても、定型発達者にとっては気持ちがわかりにくかったり、通常の考え方から逸脱し過ぎていたりするために、満足の行くアドバイスを得られないことがある。また、同級生たちや時には教師たちからいじめを受けながら育ってきたケースも多く、人を信用しにくいこともある。そのため、支援につながることが難しく、セラピーの中でもラポールの形成に時間がかかる。知的障害を伴わない、むしろ学業成績の良いASD者の場合は、障害として認知されにくく、さらに支援が遅れる要因となる。

### 【対応方針】

精神疾患の中では、ASDは双極性障害と並んで遺伝要因が比較的強い疾患である。しばらくセラピーを重ねてから改めて家族歴を詳しく聞いてみると、びっくりするような変わった人物が多く親類に存在するケースもあった。家族負因の聴取は重要だと考えている。

ASDに関してよく言われる対応方針に、長所を伸ばすというものがある。確かに、世の常識から離れた独特的の思考や推論を行うため、同年代の並みの定型発達者にはできないような立派な行動をしたり粘り強さを見せたりすることもあった。常識のものさしからいたん離れ、本人の優れた特徴を見つけては褒め、それを活かしていくことに希望を見出すのが大切だろうと思われる。

症例研究会は、以下の通り2ヶ月に1回、18:30~20:30に御茶ノ水の事務局にて開催しています。今後の症例・話題提供者も募集しております。

2014年9月25日(木)、11月26日(水) 2015年1月29日(木)、3月25日(水)

※奇数月に開催。原則として最終週に開催し、開催曜日は木曜と水曜を交互に配置しています。発表者の都合等により日程変更となる可能性があります。参加ご希望の方は事務局にお問い合わせください。

# DSM-5における性障害

はりまメンタルクリニック 針間 克己

DSMとは、米国精神医学会の発行する「Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders」のことであり、日本語では「精神疾患の診断・統計マニュアル」として翻訳されている。米国という一つの国で発行され、精神疾患に限定されたものではあるが、セクシュアリティに関する疾患リスト、診断基準が記され、国際的にも影響の大きいものである。

何年かおきに改訂され、これまで第4版が用いられていたが、2013年に第5版が発行され、日本語訳も2014年に出版された。そこでDSM-5の中で、性に関する疾患である性機能不全群、性別違和、パラフィリア障害について、従来との変更点について簡単に述べる。

## 1. 性機能不全群 Sexual Dysfunctions

性機能不全群は女性の性機能不全が大幅に変更された。従来は「欲求相」「興奮相」「オルガズム相」の三相概念に従い、男女が対照性をなすように、疾患概念が構成されていた。しかし、DSM-5では、女性の性機能不全は三相概念にとらわれず、男性とも対照性を示さないものとなっている。以下、個々の疾患を見る。

射精遅延：大きな変更はない。日本における「膣内射精障害」も含む。

勃起障害：「男性の勃起障害」から「男性の」が取れ、よりシンプルな病名になった。

女性オルガズム障害：身体的反応だけでなく、診断基準に主観的な「オルガズムの感覚」が加わった。

女性の性的関心・興奮障害：欲求相と興奮相の障害が合わせて一つの疾患となった。女性においては欲求相と興奮相が必ずしも明確に分かれるものではないからである。

性器-骨盤痛・挿入障害：「性交疼痛症」と「膣けいれん」が統合されて一つの疾患となった、挿入障害が、膣れん縮によるものか、痛みや恐怖によるものかは明確には区分されないからである。

男性の性欲低下障害：大きな変更はない。男性には性欲があって当然、ということか。

早漏：「一分以内」と、時間の基準が明確になった。

## 2. 性別違和 Gender Dysphoria

性同一性障害は「性別違和」に変更された。かつての同性愛と同じように、性同一性障害も多様なセクシュアリティの一つとして、精神疾患リストから外せという運動・議論が広まっていた。その対応が注目されたが、結局疾患リストには残り、病名としては「障害」を外し、病理性の薄い、「性別違和」となった。診断基準としては、性分化疾患のものも含むようになり、身体的な性別違和感だけでなく、性役割への違和感だけでも診断基準を満たすなど、より広範なものを対象とするようになっている。なお、マスコミ等で日本精神神経学会が、「性同一性障害」から「性別違和」に病名を変更した、という発表があったが、それは誤解である。DSM-5の日本語訳を発表した、というのが正確な理解である。WHOの作成する、ICDという国際的な疾患リストが数年後改訂予定なこともあります、それまでは、「性同一性障害」、「性別違和」のいずれも使われる状態になると思われる。

## 3. パラフィリア障害 Paraphilic Disorders

「Paraphilia」(性嗜好異常、パラフィリア)が「Paraphilic Disorders」(パラフィリア障害)となっただけで大きな変更はない。レイプ犯など強制的な性交に興奮する「Paraphilic Coercive Disorder」(パラフィリア性強制障害)という新疾患がリスト入りするかが注目されたが、見送りになった。「犯罪」と「精神疾患」は別概念であるというのが見送りの主たる理由のようである。

## 第43回セックス・カウンセリング研修会結果報告

独立行政法人地域医療機能推進機構  
埼玉メディカルセンター 花村温子

平成26年5月25日（日）、東京慈恵会医科大学の講堂にて、第43回セックス・カウンセリング研修会が開催されました。当日は、「不妊症と性機能障害」というテーマのもと、様々な先生方にご講義戴きました。ご登壇いただいた先生方と、ご講義のテーマは以下の通りです。

「性機能障害の治療と不妊治療の選択」	国立病院機構千葉医療センター産婦人科 大川 玲子先生
「不妊治療と性生活 - 女性の性の QOL と医療者の関わり」	聖路加国際大学教授 森 明子先生
「生殖医療の最前線」	京都大学大学院教授 菅沼 信彦先生
「難治性男性機能障害における集中的治療」	泌尿器科やまなかクリニック院長 山中 幹基先生
「カウンセリングの基本講座・症例報告・ロールプレイング」	

日本性科学学会カウンセリング室・主婦会館クリニック臨床心理士 金子 和子先生

参加者皆が、学びを深める時間となりました。

終了後にアンケートを行いましたところ、参加者は医師、臨床心理士、看護職、教育職にとどまらず、性に関する商品を扱う会社の方や、学生、CSWの方など多岐に渡りました。また、様々なポジティブな感想、貴重なご意見をお寄せいただきました。一部を抜粋してご紹介いたします。

- ・(不妊)治療開始年齢について、医療者と患者の認識がズレているのは、芸能人について30代後半～40代での妊娠・出産の報道がけっこう多いため、その年齢まで大丈夫とかん違いしてしまうのではないか？
- ・興味のある話題について、わかりやすい話でした。
- ・初めて参加させていただきました。仕事をしている中では、理解していなかったことも多く、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・初めて参加しました。現実を知り、学び一大切であると実感しています。クリニックで相談窓口を担当しているものの使命をもっと深く考えていかなければと思います。
- ・大学院で臨床心理学を勉強しているところですので、どのご講演も非常に勉強になりました。特にロールプレイは様々な領域のご専門の先生からご意見を伺えて、貴重な体験となりました。

これからも、当会では、性に関する実践的な研修会を開催して参ります。来年度も同時期に開催予定ですので、会員外の方も含め、ぜひまた多数のご参加をお待ちしております。

## 2012年・中高年セクシュアリティ調査…振り返れば4年間

セクシュアリティ研究会 荒木 乳根子

お手元の届いた日本性科学会雑誌Vol.32「2012年・中高年セクシュアリティ調査特集号」お読みいただきましたでしょうか。このほぼ10年で中高年のセックスレス化が著しく進展していて、夫婦間で性の持つ重みが薄らぎ、婚外交渉に関わる性規範は緩み、実際に配偶者以外との付き合いが増えています。結婚の持つ意味が、夫婦の関係性が大きく変わろうとしているのじゃないか、2012年調査の結果は私たちにそんな思いを抱かせました。

調査に当たっては、本学会の先生方にも調査票配布にご協力いただきましたこと、改めてお礼申し上げます。巷に興味本位の性にかかる記事は溢れていますが、いざ自らの性について記入してもらえるかというとなかなか難しく、今回の調査は2011年から2年がかりとなりました。老人クラブの会長さんが「アンケート引き受けるよ。」と言って下さったものの調査票をお見せしたら腰が引けて、結局、役員会のOKが取れなくて駄目だったり、苦戦しました。私たちの調査は性生活、性機能などかなり踏み込んで聞いているので、一般の方には抵抗感が強いのでしょう。6人の研究メンバーが奔走してやっと集めたデータなので、回答者の協力を無駄にしたくない、できるだけ皆さまにも活用していただきたいと思い、特集号の後半は全データを掲載したデータブックにしました。前半は研究メンバー各々が関心をもった内容について論述し、分析を加えています。詳細にみていくと興味深い発見がまだ多々あるに違いない…そう思いつつ、この特集号をまとめるだけで精いっぱいだったというのが正直なところです。

2000年調査からほぼ10年、再調査をしようと調査票の検討を開始したのは2010年の夏、それから14年7月に特集号を発刊するまでの4年間、毎月1回の研究会をもちました。研究メンバーは大川玲子、堀口貞夫、堀口雅子、石田雅巳、金子和子そして私。忙しい中欠席もなく顔を合わせ、調査の検討だけではなく、情報交換と四方山話に花が咲きました。私自身は豊かな経験と高い見識をお持ちの先生方との交流する楽しさに支えられて、この4年間頑張ることができた気がしています。今後、男女の関係性はどのように変化していくのか、10年後に再調査をしたいというのが本音ですが…。研究メンバーの平均年齢はおよそ75歳（？）。若手研究者で関心を持って下さる方が出てこないかと期待しています。

なお、学会事務局にご連絡いただければ、送料込み2,000円で雑誌をお分けしています。

入手ご希望の方がいらしたら、お知らせ願います。